

令和4年度 学校評価書(中間評価)

※1段:(R3中間) 2段:R3最終 3段:R4中間

能登町立柳田中学校

重点目標	外部アンケート				自己評価			達成度状況の考察(○)と改善方法(●)	
	保護者アンケート	A+B	生徒アンケート	A+B	評価指標	達成度評価規準	評価		
1 「学び」のある学校づくり	学校は、学力向上に積極的に取り組んでいると思いますか。	(90.6) 93.9 89.4	各教科の授業内容はよくわかる。(全教科平均)	(94.8) 92.1 95.9	【努力指標】 「わかる授業・学び合える授業」を目指して授業改善に努め、生徒が「折れない心を持つこと」を実行できている。	◆授業アンケート(全教科平均) ◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	A	○各教科の授業内容はよくわかると答えた生徒の割合が90%を超えている。 ○答えを導き出す課程のペア活動やグループ活動を楽しんでいる項目の数値は依然として90%を超えているが、自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しているという数値が下がった。グループ活動はできるが、資料を使ったり、話の組み立てを工夫するという意識があまりなかったのではないかと考えられる。 ●生徒が「わかった」と思っている割合は高い。しかし、定期テスト等で思考・判断・表現を問う問題(検証問題)の生徒率は高くない。(1年36.6%、2年34.1%、3年53.0%)知識をうまく活用できていないと考えられる。	
		答えを導き出す課程のペア活動やグループ活動を楽しんでいる。	(95.6) 91.1 94.3	自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組み立てなどに工夫して発表していた。					(82.3) 71.3 69.8
	お子さんは、学年目標時間(1年60分、2年70分、3年80分)の家庭学習の習慣が身についていますか。	(73.8) 71.1 66.1	毎日、学年目標の家庭学習に取り組んでいる。	(84.9) 80.8 84.9	【成果指標】 家庭と連携を通して、家庭学習の習慣化を図ることができた。(あゆみノートやノー画面運動の取組)	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B		○毎日、学年目標の家庭学習に取り組む生徒、自分で計画を立てて勉強している生徒の数値が上がってきた。今後も家庭学習への取り組み方、家庭での時間の使い方について機会をとりえて指導を継続する。 ○保護者と生徒の回答に誤差がある。 ●家庭学習の習慣化に向けて、テスト期間を「家庭学習強化週間」とし、今後も継続する。
	お子さんは3点固定(起床時間・就寝時間・家庭学習開始時間)がされていると思いますか。	(66.4) 67.5 55.6	自分で計画を立てて勉強している。	(80.3) 88.0 88.7	【努力指標】 家庭と協力・連携して、より良い生活習慣が身につくように指導できた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B		○生徒の朝食摂取率が下がった。1年生でのあまり食べない生徒が一人いる。また、生徒は早寝早起きを心掛けているようだが、保護者との回答には誤差がある。 ●睡眠と生活習慣の関係について、指導はしているが、その結果がすぐには表れていない。ネット依存傾向のある生徒や7時間以上の睡眠を確保できない生徒には、個別指導を行ったり、継続して啓発していく。
2 「関わり」のある学校づくり	お子さんは学校へ楽しそうに行っていますか。	(94.3) 87.4 91.0	学校へ行くのが楽しい。	(90.4) 92.6 92.2	【努力指標】 部活動や生徒会・委員会活動や各種行事などを通して、充実した学校生活がおくれるように指導できた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B	○学校へ行くのが楽しいと答える生徒の割合が少しずつ上がってきている ○部活動の取組の成果は高く安定している。日々の取組の成果と考える。 ○生徒会活動・委員会活動はやりがいがあると答える生徒が90%を超えて安定している。自治的活動の意義を生徒が実感する場を保障し、教師が支援してきた成果として、割合が高くなっていると考える。 ○「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」「自分にはいいところがある」の数値が上昇した。 ●「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」「自分にはいいところがある」の項目で、3年生の大きく上昇した。縦割り班での活動を増やしたことにより、最上級生としての自覚をもって下級生と関わる機会が多かったことが結果として数値に現れたと考えている。また、人前に出て何かをするときには、事前の練習に取り組んでから本番を迎えたことによって、自信がついてきたのではないかと考える。	
			難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している。	(72.7) 67.2 86.6					
			自分の行動に自信を感じることがある。(自分にはいいところがある)	(74.2) 61.0 82.7					
			部活動は、自分を鍛えてくれる。	(97.4) 95.2 93.8					
3 「安心・信頼」のある学校づくり	学校は、「いじめを許さない学校づくり」に努めていると思いますか。	(97.6) 93.1 94.4	思いやりの心を持って、級友などに接している。	(9.3) 3.0 98.1	【努力指標】 生徒会の活動を中心に、「いじめを許さない学校づくり」を行うことができた。	◆生徒アンケート A: 95%以上 B: 90%以上 C: 85%以上 D: 85%未満 ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	A	○「思いやりの心を持って、級友などに接している」生徒の割合が上がった。「自分の周りにはいじめや仲間はずれがない」に否定的な回答をしている生徒に思いを確認する。 ●些細な出来事について、今まで以上に保護者と教職員間で情報共有し、100%に近づけるよう努力する。	
			自分の周りには、いじめや仲間はずれはない。	(93.0) 93.4 90.4					
4 「業務改善」をすすめる学校づくり	職員アンケート	A+B	自分にも求められていることを理解し、組織の一員として活動できた。	(100) 100 90	【努力指標】 校務分掌を理解し、学校組織の一員として、意識して行動することができた。	◆職員アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	A	○教職員一人一人が、組織的な学校運営に関わっている。100%と数値が高い。	
									自分の役割分担任以外のことに協力できた。
5 「月2回の定時退校」	「月2回の定時退校」	(78) 100 60	インターネット・タブレット等の使用に関して、家庭内にルールがありますか。	(77.0) 79.3 81.5	メディアコントロールに取り組んでいる。	(62.4) 70.5 80.7	B	○今年度から「ノー画面」を改め「メディアコントロール」とした。取り組み方法も取り組みやすいように変え、テスト期間中の取組の達成度をホールに掲示したため、意欲を持って取り組めたのではないかと考える。 ●メディアを禁止するばかりではなく、使い方を意識させたので、前向きにメディアコントロールに取り組んだと考える。今後も継続してメディアコントロールに取り組む。	
									先生方は、いじめやトラブルに対し、すぐに対応してくれる。
6 「報告・連絡・相談・記録」	報告・連絡・相談・記録を徹底できた。	(100) 100 90	先生や友達からほめられたり、認められたりすることがある。	(84.5) 82.2 86.5	【努力指標】 家庭と連携し、生徒に端末機器を扱うセルフコントロール力を身に付けさせることができた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B	○勤務時間調査をすることで時間外勤務時間を把握することができる。見直しを持って仕事に取り組み、ワーク・ライフ・バランスを意識していきたい。 ●コロナ禍ではあるが、生活が徐々にコロナ前に戻ってきた。やるべきことが多岐にわたるが、月1回の全員定時退校日と月1回のマイ定時退校日に継続して取り組んでいく。	
									先生や友達からほめられたり、認められたりすることがある。
7 「月2回の定時退校」	「月2回の定時退校」	(78) 100 60	先生や友達からほめられたり、認められたりすることがある。	(84.5) 82.2 86.5	【努力指標】 家庭と連携し、生徒に端末機器を扱うセルフコントロール力を身に付けさせることができた。	◆生徒アンケート ◆保護者アンケート A: 90%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	B	○勤務時間調査をすることで時間外勤務時間を把握することができる。見直しを持って仕事に取り組み、ワーク・ライフ・バランスを意識していきたい。 ●コロナ禍ではあるが、生活が徐々にコロナ前に戻ってきた。やるべきことが多岐にわたるが、月1回の全員定時退校日と月1回のマイ定時退校日に継続して取り組んでいく。	
									先生や友達からほめられたり、認められたりすることがある。